

## 英語化した日本語 (その2)

伊藤孝治

- I 英語・米語辞典によって採用された日本語
- II 「英語・米語辞典に見られる日本語」一覧
- III 日本語が西欧の文献に採り上げられた時期について

### I 英語・米語辞典<sup>(1)</sup>によって採用された日本語

前々稿「英語に採り入れられた日本語」(その3)<sup>(2)</sup>の「英米辞典に見られた日本語」一覧では763語を掲載した。<sup>(3)</sup>今回はその後刊行されたOED Additions series と前回加えられなかったRHD(2)などに採用された日本語126語を加えたものを対象とした。<sup>(4)</sup>

ここで、新しく加える126語を示すと、aburabozu (油坊主), akabo (赤帽), Akihito (昭仁親王), Amaterasu (天照大御神), Amida (阿弥陀), aogiri (青桐), aoi tsuba (葵鏝), arigato (有難う), arisaka rifle (有坂式速射野砲), Ashikaga (足利氏), Asosan (阿蘇山), Awaji (淡路島), Awaji pottery (淡路焼), Azuchi-Momoyama (安土桃山時代), bai (霾), bandaite (磐梯石), banko ware (万古焼), bean curd (豆腐), Benten (弁天), bento (弁当), Betamax (ベータ方式), Bishamon (毘沙門), Biwa<sup>2</sup> (琵琶湖), black pine (黒松), boninite (小笠原諸島から採れる岩石), Burakumin (被差別部落出身者), catan (刀), daruma (達磨), dotaku (銅鐸), Ebisu (恵美須), engawa (縁側), Fuji<sup>3</sup> (富士山), Fuku-roku-ju (福祿寿), Genroku (元禄時代), Gokuraku (極楽), Higashiyama (東山時代), hoju (補充兵役), Hokusai (北斎), Hondo (本土), Hotei (布袋), ibotenate (イボテニック酸

塩), ibotenic acid (イソキクサゾール), ishime (石目), Japanese andromeda (アセビ), Japanese Current (黒潮), Jodo Shinshu (浄土真宗), Jurojin (寿老人), kainic (カイニン酸の), kainic acid (カイニン酸), kakebuton (掛蒲団), katakiribori (片切彫), Kobe beef (神戸肉), Kojiki (古事記), kokumin (国民軍), Kwannon (観世音), LDP (自由民主党), magatama (勾玉), makiwara (巻藁), makizushi (巻寿司), matsutake (松茸), Minseito (民政党), Momoyama (桃山時代), nigirizushi (にぎり寿司), nigori (濁り), Nihongi (日本紀), nishiki (錦), nokyō (農協), Obaku (黄檗宗), Okinawa (沖縄), Okuninushi (大国主命), Omi<sup>2</sup> (近江), ramen (ラーメン), Rikken (立憲の), Rinzai (臨濟宗), sai (鉏), seiza (正座), Seiyuhonto (政友本党), Seiyukai (政友会), seoi nage (背負い投), sewamono (世話物), shibuichi-doshi (四分一どおし), shikibuton (敷蒲団), shingen tsuba (信玄鏝), Shingishu (新義州), shodan (初段), Shojo (小乗), Shorin ryu (少林流), Shotokan (松涛館), shunto (春闘), shuto (手刀), Sohyo (総評), sosaku hanga (創作版画), suimono (吸い物), Suribachi (摺鉢山), surimi (搗身), sutemiwaza (捨身技), tachi (太刀), tachibana (橘), taiko (太鼓), Taira (平氏), Tanabata (七夕), tanto (短刀), tengu (天狗), Togo (東

郷平八郎、東郷茂徳), Tokyo (東京), Tokyo Bay (東京湾), tomoe-nage (巴投), tori (取り), Tosa fowl (土佐の尾長鶏), Tosa school (土佐派), tsurugi (劔), Tsushima (対馬), Tsushima Strait (対馬海峡), Tsutsutsi (躑躅), ude (腕), ura-nage (裏投), utai (謡), wakame (若布), wakizashi (脇差), washi (和紙), waza-ari (技あり), Yamaguchi-gumi (山口組), Yamato school (大和派), Yezo (蝦夷), yondan (四段), Yuzen birodo (友禅天鷲絨), zaitech (財テク) である。

今回扱った886語のうち、英語辞典<sup>(5)</sup>によって採用された日本語は637語である。一方、米語辞典<sup>(6)</sup>によって採用された日本語は621語で、前回と同様、英語辞典が上回っていることが認められた。

英語・米語辞典における日本語の採用に関して違いがある事象を前稿<sup>(7)</sup>において述べた。その採用方法の差異から各辞典の編纂の傾向を知ることが出来ないだろうか。そのためには、まず日本語を採用した辞典毎に分け、カテゴリー毎に分類することによって、その方法の差異が認められるのである。そこで、辞典ごとの区分を前提にカテゴリーによる分類を行い、英語辞典、米語辞典の順に観てみよう。

#### A. 英語辞典

(1) OEDによって採用された日本語を生活習慣、貨幣、武道などのカテゴリー毎に分類し、その首

位となったものを選び、採用率の高い順に挙げると、ki-mon (鬼門) など生活習慣に関するものが100%、katsura (鬘) など装身具とheimin (平民) など身分・階級に関するものが共に90%、koban (小判) など貨幣に関するものが88%、au cuba mosaic (アオキモザイク病) など医学に関するものが87.5%、renga (連歌) など文学とsas himi (刺身) など料理に関するものが共に84%、mamasan (バーのマダム) など職業に関するものが79%、o-sotogari (大外刈り) など武道に関するものが78%、togidashi (研出蒔絵) など工芸に関するものが76%、haori (羽織) など衣服に関するものが75%、shoji (障子) など住居に関するものが73%、kago (駕籠) など乗物に関するものが72%、kotatsu (炬燵) など生活日用品に関するものが70%、sumie (墨絵) など美術とyen bond (円債券) など金融・経済とgo (碁) など遊戯・娯楽に関するものが共に66%、banzai party (万歳組) など個人・団体に関するものが57%、genro (元老) など政治・行政に関するものが54%、Ikunolite (生野石) など鉱物に関するものが52%で、これに関してはWebster辞典も同率である。双方の辞典での採用時点に差異が見られ、これについてはWebster辞典において言及する。なお、その採用状況は次頁に示してある。

OEDと他の辞典における「生活習慣」、「衣服」、「鉱物」に関する日本語の採用を示すと、

	OED	SOED	Webster	RHD	SRHD
<b>生活習慣 (OEDでの採用率:100%)</b>					
ki-mon (鬼門)	○	○			
koi (鯉幟)	○				
miai (見合い)	○	○			
nakodo (仲人)	○	○			
noshi (熨斗)	○	○			
tsutsumu (包む)	○	○			
<b>衣服 (OEDでの採用率:75%)</b>					
fugi=fuji (富士絹)			○		
habutai (羽二重)	○	○	○	○	
hakama (袴)	○	○			

	<u>OED</u>	SOED /	Webster	RHD	SRHD
haori (羽織)	○	○	○	○	
happi (法被)	○	○		○	○
kimono (着物)	○	○	○	○	○
kimonoed (着物を着た)	○	○	○	○	
kimono sleeve (着物式の袖)			○		
mompei (もんぺ)	○	○			
nishiki (錦)			○		
obi (帯)	○	○	○	○	
Yeddo crepe (江戸クレープ)	○				
Yeddo poplin (江戸ポプリン)	○				
Yokohama crape(横浜クレープ)	○				
yukata (浴衣)	○	○		○	
yuzen birodo (友禅天鷲絨)			○		

<b>鉱物(OED・Wでの採用率:52%)</b>	<u>OED</u>	SOED /	Webster	RHD	SRHD
abukumalite (阿武隈石)			○		
akenobeite (明誕生石)			○		
arakawaite (荒川石)			○		
bandaite (磐梯石)			○		
boninite (小笠原諸島から採れる岩石)			○		
Ikunolite (生野石)	○				
ishikawaite (石川石)	○		○		
johachidolite (上八洞石)	○				
Kambara earth (蒲原粘土)			○		
kobeite (河辺石)	○				
kotoite (小藤石)			○		
nagatelite (長手石)			○		
Ningyoite (人形石)	○				
sanukite (讃岐岩)					○
shakudo (赤銅)	○	○		○	
shibuichi (四分一、おぼろ銀)	○	○	○	○	
sudoite (緑泥石)	○				
todorokite (轟石)	○				

	OED	SOED	Webster	RHD	SRHD
yugawaralite (湯河原沸石)	○				

以上、生活習慣に関しては、英語辞典にだけ採用され、米語辞典においては皆無である。衣服に関しては、habutaiなど7語は英語・米語辞典に採用されているが、fugiなど4語はWebster辞典にだけ、hakamaなど5語はOEDにだけ採用され、偏りがある。鉱物に関しては、ishikawaiteなど3語のみが英語・米語辞典に採用されている。それ以外の語はすべてOEDかWebster辞典かによって単独に採用され、数を等しく分け合っている。衣服に較べて、採用の偏りが更に顕著である。

試みに、OEDにだけ採用された105語<sup>(8)</sup>を前述の如く分類し、多い順に列記してみると、sobaya (蕎麦屋) など料理に関するもの、kesagatame (袈裟固め) など武道に関するもの、LDP (自由民主党) など政治・行政に関するもの、Ningyoite (人形石) など鉱物に関するもの、hanashika (咄家) など職業に関するもの、

shintoize (神道化) など宗教に関するものなどである。この場合は限定されているが、上記の事象とほぼ一致しており、その傾向の一端を知ることができよう。

(2) SOEDによって採用された日本語についても分類し、採用率の高い順に挙げると、haniwa (埴輪) など歴史に関するものが100%、itzebu (一分銀) など貨幣と taiko (太鼓) 音楽に関するものが共に88%、senru (川柳) など文学に関するものが84%、ibotenate (イボテニック酸塩) など微生物・化学に関するものが82%、banzuke (番付) など芸能に関するものが70%、goban (五目並べ) など遊戯・娯楽に関するものが66%である。

SOEDと他の辞典における「歴史」、「芸能」に関する日本語の採用状況を示すと、

	OED	SOED	Webster	RHD	SRHD
<b>歴史 (SOEDでの採用率:100%)</b>					
dotaku (銅鐸)	○	○			
haniwa (埴輪)	○	○	○	○	
Meiji (明治時代)	○	○	○	○	
Showa (昭和時代)	○	○		○	
Taisho (大正時代)		○	○	○	
Tokugawa (徳川時代)	○	○		○	
<b>芸能 (SOEDでの採用率:70%)</b>					
banzuke (番付)		○			
bugaku (舞楽)		○	○	○	
butoh (前衛舞踏)					○
jōruri (浄瑠璃)	○	○			
kabuki (歌舞伎)	○	○	○	○	○
katsuramono (鬘物)	○	○			
kyogen (狂言)	○	○		○	
mai (舞)			○		

	O E D	S O E D	Webster	R H D	S R H D
Mikado (「ミカド」)			○	○	○
ningyo-jōruri (人形浄瑠璃)	○	○			
No (Noh) (能)	○	○	○	○	
nogaku (能楽)	○	○	○	○	
odori (踊り)			○		
onnagata (女形)	○	○		○	
oyama (女形)	○	○			
ryu (流)	○	○			
sewamono (世話物)	○				
shosagoto (所作事)	○	○			
utai (謡)			○		

以上、歴史に関しては、英語辞典、米語辞典双方における採用に差異は殆どないと言えよう。ただし、SRHDだけが皆無である。芸能に関しては、banzukeなど4語はSOED, Webster辞典, SRHDによって単独採用されている。残りのすべては単独による採用ではない。OEDがSOEDに次ぐ採用率を示しているように、英語辞典の方が優勢である。

(3) OEDとSOEDだけに採用された152語<sup>9)</sup>を分類し、多い順に列記すると、ude-gatame (腕固め) など武道に関するもの、katsuobushi (鰹節) など飲食物とNashiji (梨子地) など工芸に関するもの、Obaku (黄檗宗) など宗教とuchiwa (団扇) など生活日用品に関するもの、ningyo-jōruri (人形浄瑠璃) など芸能とoiran (花魁) など職業とsurimono (色刷り版画) など美術に関するもの、kabane (姓) など身分・階級とnakodo (仲人) など生活習慣とMikimoto pearl (御木本真珠) など装身具とTosa (土佐犬) など動物に関するものなど。

勿論、殆どすべてはカテゴリーにおいて優位を占めているものである。

ところで、OEDにだけ採用された日本語で、第1版〔OED(1)〕採用の語のうちshomio (小名) はOED(1)以降、OEDは勿論、他の辞典においても一切採用されなかった唯一の語である。不採用の理由はさだかでないが、よく知られてい

ないとか、重要性が殆どないとかではないだろうか。この語以外のすべてはOED(2)においても採用されていることは言うまでもない。OEDの編纂方針が歴史的例証の原理<sup>10)</sup>に基づく立場を堅持しているのに対して、Webster辞典は廃れたり、重要性がなくなった語は一切採用から外すことが方針である。したがって、Webster第2版〔W(2)〕以降不採用のままか、あるいは、不採用とされた語が他の辞典によって再び採り上げられた事実は大変興味深い。この事象についてはWebster辞典において例示する。

つぎに、OEDとSOEDだけに採用された日本語で、OED(1)時点における採用のshippo (七宝焼) はOED(1)とW(2)において採用されたが、それ以降のOED(2)とW(3)において不採用として扱われたが、その後重要な語と認められたため<sup>11)</sup>、1993年刊行のSOEDとOED Additions series (1)によって再び採り上げられている。この事実も注目すべきであろう。

## B. 米語辞典

(1) Webster辞典によって採用された日本語を分類し、首位となったものを採用率の高い順に挙げると、mana (真名) など文字とcho (一町) など度量衡に関するものが共に100%、Sanda ware (三田焼) など陶器に関するものが94%、norito (祝詞) など宗教に関するものが88%、hagi (萩)

など植物に関するものが86%、Tosa fowl (土佐の尾長鶏) など動物に関するものが85%、kanten (寒天) など食物に関するものが77%、bandaite (磐梯石) など鉱物に関するものが52%である。

A.(1)で触れた鉱物に関する語は、OEDとWebster辞典による採用が共に52%で首位であるが、採用時点に違いがある。OEDによって採用された10語のうち、shakudo (赤銅) 以外のすべてがOED(2)時点の採用である。すなわち、OED(1)時点の採用は shakudoのみである。一方、Webster辞典によって採用された10語のうち、abenobeito (明誕生石) など6語がW(2)時点であるのに対して、abukumalite (阿武隈石) など4語はW(3)時点の採用である。この事象はOEDが第2次大戦後日本語の採用を積極的に行った一面を反映しているかもしれない。また、身分・階級に関する語のうち、hatamoto (旗本), inkyo (隠居), jito (地頭), muraji (連), omi (臣), omuraji (大連), Roju (老中) などがOED(2)時点での採用である。これも同じ傾向と見做してよからう。

つぎに、Webster辞典にのみ採用された日本語のうち、W(2)以降、同辞典第3版〔W(3)〕においても採り上げられなかった語が57語<sup>(12)</sup>ある。そのうち36語はW(2)以降一切採用されなかった語である。残りの21語は他の辞典によって採り上げられたと見做しうるものである。そこで、他の辞典毎の採用状況を観てみると、

(a) RHDによって採り上げられたと見做される語: Amaterasu (天照大御神), bai (霾), butsu (仏像), daibutsu (大仏), Japan Current

(日本海流), Meiji (明治時代), orihon (折り本), Taisho (大正時代), Tempyo (天平時代), tsuba (鏢)

(b) SRHDによって採り上げられたと見做される語: butsu

(c) OEDによって採り上げられたと見做される語: Jō-do-shū (浄土宗), ken<sup>1</sup> (間), ken<sup>3</sup> (県), matsuri (祭), Meiji, orihon, ronin (浪人), sho<sup>1</sup> (升), sun (寸), to (斗), tsuba, uta (短歌), Yoshiwara (吉原遊廓), yuzen process (友禅染)

(d) SOEDによって採り上げられたと見做される語: ken<sup>1</sup>, ken<sup>3</sup>, matsuri, orihon, ronin, Taisho, to, tsuba, uta, Yoshiwaraである。

上記の語は古語・廃れた語と見做されるものが大部分を占めているにも拘らず、他の辞典によって採り上げられた事実は注目に値する。そこで、採用状況の頻度順に列記すると、

OED : 14, SOED : 12, RHD : 11, SRHD : 1 となる。

以上のことから、OED, SOED, RHDの編纂者はこれらの語の採用に積極的な対応であるのにSRHDの編纂者は極めて消極的であることが分かった。

OED(1)による日本語の不採用が唯一shomioであったのに対して、W(2)による日本語の不採用は57語で、OED(1)と較べて遥かに多数であった。これは、前述のごとく、各辞典の編纂方針に基づく差異であろう。

Webster辞典と他の辞典における「度量衡」、「陶器」に関する日本語の採用状況を示すと、

	OED	SOED	Webster	RHD	SRHD
<b>度量衡 (Wでの採用率: 100%)</b>					
bu (分)			○		
cho (一町)			○		
fun (分)			○		
ken <sup>1</sup> (間)	○	○	○		
roku (石)	○	○	○	○	
momme (匁)	○	○	○	○	
ri (里)	○	○	○		

	OED	SOED	Webster	RHD	SRHD
shaku <sup>2</sup> (尺)	○	○	○		
sho <sup>1</sup> (升)	○		○		
sun (寸)	○	○	○		
tan (反)	○	○	○		
to (斗)	○	○	○		
tsubo (坪)	○	○	○		
<b>陶器 (Wでの採用率: 94%)</b>					
banko ware (万古焼)			○		
Arita (有田焼)	○	○	○		
Awaji pottery (淡路焼)			○	○	
Bizen ware (備前焼)			○		
Hirado (平戸焼)	○	○	○		
Hizen (肥前焼)	○	○	○		
Imari (伊万里焼)	○	○	○	○	
Kakiemon (柿右衛門焼)	○	○	○		
Karatsu ware (唐津焼)			○		
Kutani (九谷焼)	○	○	○	○	
Mishima (三島手)			○		
Nabeshima yaki (鍋島焼)	○	○	○		
raku (楽焼)	○	○	○	○	
Sanda ware (三田焼)			○		
Satsuma (薩摩焼)	○	○	○	○	
Seto (瀬戸焼)	○	○	○		
Temmoku (天目茶碗)	○	○			

以上、度量衡に関しては、主に採用しているのはOED, SOED, Wである。RHDでの採用は僅少で、体積・質量を表す語に限られている。SRHDでの採用は皆無である。また、OEDでの採用はshaku<sup>2</sup>以外すべてがOED(2)の時点である。陶器に関しては、主に採用しているのはOED, SOED, Wである。RHDでの採用は僅少で、SRHDでの採用も皆無である。また、OEDでの採用もHiradoなど3語以外のすべてがOED(2)の時点である。

(2) RHDによって採用された日本語を分類し、首位となったものを採用率の高い順に挙げると、Azuchi-Momoyama (安土桃山時代) など文化に関するものが100%、Yezo (蝦夷) など地名に関するものが91%、Kuroshio extension (黒潮続流) など自然現象に関するものが83%、ken<sup>4</sup> (剣) など武器に関するものが80%、shogi (将棋) など遊戯・娯楽に関するものが66%である。

RHDと他の辞典における「文化」、「地名」に関する日本語の採用状況を示すと、

	OED	SOED	Webster	RHD	SRHD
<b>文化</b> (RHDでの採用率: 100%)					
Azuchi-Momoyama(安土桃山時代)				○	
Genroku (元禄時代)				○	
Heian (平安時代)	○	○	○	○	
Higashiyama (東山時代)				○	
Jomon (縄文式の)	○	○	○	○	
kamakura (鎌倉時代)	○	○		○	
Momoyama (桃山時代)				○	
Nara (奈良時代)	○	○	○	○	
Tempyo (天平時代)			○	○	
Yayoi (弥生時代)	○	○	○	○	
<b>地名</b> (RHDでの採用率: 91%)					
Asosan (阿蘇山)				○	
Awaji (淡路島)				○	
Biwa <sup>2</sup> (琵琶湖)				○	
Bonin Islands (小笠原諸島)				○	○
do (道)			○		
Fuji <sup>3</sup> (富士山)			○	○	
Fujiyama (富士山)			○	○	
Hiroshima (広島)				○	
Hokkaido (北海道)				○	
Hondo (本土)				○	
Honshu (本州)				○	
Kyushu (九州)				○	
Little Tokyo (リトル東京)					○
Ogasawara Jima (小笠原諸島)				○	
Okinawa (沖縄)				○	
Omi (近江)				○	
Ryukyu (琉球列島)	○	○	○	○	○
Shikoku (四国)				○	
Shingishu (新義州)				○	
Suribachi (摺鉢山)				○	
Tokyo (東京)			○	○	



	OED	SOED	Webster	RHD	SRHD
Tokyo Bay (東京湾)				○	
Yeddo (江戸)	○	○		○	○
Yezzo (蝦夷)				○	

以上、文化に関しては、英語辞典、米語辞典共に採用されている。そのうちで、RHDでの採用は100%であるのに、SRHDでの採用は皆無である。地名に関しては、英語辞典での採用が僅少、米語辞典のWebster, SRHDにおける採用も少数であるのに較べて、RHDでの採用は他を圧倒している。ここには、例示しなかったが、武器に関する語の採用も他を圧倒している。<sup>(13)</sup>

RHDだけに採用された79語<sup>(14)</sup>のうち、第1版〔RHD(1)〕以降、第2版〔RHD(2)〕によっても採り上げられなかった語が21語ある。そのうち他の辞典によって採り上げられたと見做しうる語が、daisho, katana, Shiga bacillus, soogee, soy frame, tachi, tanto, wakizashiの8語ある。

残りの13語はRHD(1)以降、一切採用されてないものである。

他の辞典によって採り上げられたと見做される8語の採用状況は、(a)W(3)によって採りあげられた語：katana (刀), Shiga bacillus (赤痢菌), soogee (甲板を洗うロープヤーン)

**遊戯・娯楽** (OED, SOED, RHD, SRHDでの採用率：66%)

	OED	SOED	Webster	RHD	SRHD
daruma (達磨)				○	
go (碁)	○	○	○	○	○
goban (五目並べ)	○	○	○	○	○
Godzilla (ゴジラ)					○
I-go (囲碁)	○	○		○	○
janken (じゃんけん)	○	○			
karaoke (カラオケ)	○	○		○	○
kokeshi (こけし)	○	○	○		
Nintendo (コンピュータゲーム)				○	○
pachinko (パチンコ)	○	○	○	○	○
Sega (ゲーム機)					○
shogi (将棋)	○	○	○	○	

(b) SRHDによって採り上げられた語：soogee

(c) OEDによつ採り上げられた語：daisho (大小), katana, Shiga bacillus, soy frame (醤油立て), tachi (太刀), tanto (短刀)

(d) SOEDによつ採り上げられた語：katana, Shiga bacillus, soy frame, tachi, tanto, waki-zashi (脇差) である。

この場合も、SRHDの編纂者の対応は相変わらず消極的である反面、英語辞典(OED, SOED)の編纂者の積極的な対応が目立つ。

(3) SRHDによって採用された日本語を分類し、その採用率の高いものは唯一「遊戯・娯楽」に関する語である。前記の「生活習慣」、「文化」の如く採用が皆無の場合もあり、この「遊戯・娯楽」、「地名」以外の殆どすべての採用率は下位である。他の辞典に較べて、採用語数が少ないのがそれを如実に示している。

SRHDと他の辞典における「遊戯・娯楽」に関する日本語の採用状況を示すと、

以上の如く、このSRHDの外にOED, SOED, RHDにおける採用も同率である。

なお、SRHDにだけ採用された語は、

Atari Democrat, Atari Socialism, Atarize, black mist, butoh, Canon, chichi, Euroyen, Godzilla, karate-kick, Little Tokyo, Midori (Melon Liquer), Nintendo neck, Niplet, Nippon Club, rinnotam, salary man, sanukite, Sega, Sony, soy ink, sumodom, Teenage Mutant Ninja Turtles, Tokyo Rose, Tokyo Round, tongue sushi, yen bond以上27語である。

### 結 語

英語化された日本語(886語)が、英語・米語辞典によって採用された状況から、各辞典の編纂の傾向を知ることが今回の目的である。

そこで、上記の語が採用された辞典毎に区分、カテゴリー毎に分類し、採用率の高い順に列举すると、度量衡、文字、文化、生活習慣、歴史、陶器、地名、身分・階級、装身具、宗教、貨幣、音楽、医学、植物、動物、料理、文学、自然現象、微生物・化学、武器、職業、食物、武道、工芸、衣服、住居、乗物、生活日用品、芸能、美術、金融・経済、遊戯・娯楽、個人・団体、政治・行政、鉱物などである。

OEDの採用では、生活習慣、装身具、身分・階級、貨幣、医学、料理、文学、職業、武道、工芸、衣服、住居、乗物、生活日用品、美術、金融・経済、遊戯・娯楽、個人・団体、政治・行政、鉱物に関する語が他の辞典を上回っている。このうち、貨幣と文学に関してはSOEDと同率、また、遊戯・娯楽に関してはSOED, RHD, SRHDと共に同率、鉱物についてもWebster辞典と同率である。このOEDは、各カテゴリーを全般に亘って採用しているが、地名に関しては、SOEDと同様、Ryukyu(琉球列島)とYeddo(江戸)のみの採用である。これに対して、RHDでの地名の採用は突出している。

SOEDの採用では、歴史、貨幣、音楽、文学、微生物・化学、芸能、遊戯・娯楽に関する語が他の辞典を上回っている。このうち、貨幣と文学に関してはOEDと同率、遊戯・娯楽に関してはOED, RHD, SRHDと共に同率である。また、地名に関する語も、OEDと同じ2語だけで

ある。

OEDと同様、SOEDでの採用は全般に亘っている。工芸、美術、植物、動物、乗物などに関しては、殆どOEDに近い採用率である。

Webster辞典の採用では、文字、度量衡、陶器、宗教、植物、動物、食物、鉱物に関する語が他の辞典を上回っている。このうち、鉱物に関してはOEDと同率である。なお、陶器に関する語は100%の採用率を占めて目立ち、植物と動物に関しても他の辞典を遥かに上回っている。

また、Webster辞典での採用も全般に亘っている。

RHDの採用では、文化、地名、自然現象、武器、遊戯・娯楽に関する語が他の辞典を上回っている。このうち、遊戯・娯楽に関してはOED, SOED, SRHDと共に同率である。なお、地名と武器に関する語の採用は他の辞典を遥かに上回り、とくに地名が目立っている。

また、RHDでの採用も全般に亘っている。

SRHDにおける採用率が高いのは、唯一遊戯・娯楽である。ただし、これはOED, SOED, RHDと共に同率である。なお、文化、歴史、度量衡、装身具、音楽、生活習慣に関する語の採用は皆無である。既に、Webster辞典とRHDにおいて述べた如く、不採用扱いとなった語に対する対応が英語辞典に較べて極めて消極的であることを記憶にとどめておかねばならない。

### 注

- (1) 英語辞典とは、英国系のオックスフォード英語辞典(OED)とショーター・オックスフォード英語辞典(SOED)を指す。また、米語辞典とは、米国系のウェブスター大辞典(W)とランダムハウス英語辞典(RHD)と小学館ランダムハウス英語辞典(SRHD)を指す。
- (2) 奈良県立商科大学研究季報第7巻第2号(1996. 10. 11)上田穰先生記念号
- (3) 763語のうちkazuramono(鬘物)、Noh(能)、Ryobu Shinto(両部神道)、tamari sauce(溜まり醤油)、tattami(畳)については、それぞれkatsuramono, No, Ryobu, tamari, tatamiに統合した。なお、geisha(芸者)とgeisha girl, furo(風呂)とofuroなどについては採用している辞典が異なるため統合しなかった。また、Jodoは「浄土」と「浄土宗」、

Zen は「禅」と「禅宗」の如く二つの意義をもっている。おそらく、その混乱を避けるためだと思われる Jō-do-shū と Zen Buddhism を併記した。したがって「英米辞典に見られる日本語」の数は760語とする。

- (4) 英語・米語辞典によって採用された日本語の数は、上記760語に新たに126語を加えた886語である。
- (5) OED (1版、2版、Additions seriesを含む)によって採用された語は587語、SOEDによって採用された語は457語である。
- (6) Webster (2版、3版、Supplement to W(3)を含む)によって採用された語は450語、RHD (1版、2版を含む)によって採用された語は348語、SRHDによって採用された語は170語である。
- (7) 拙稿「英語化した日本語」PP.39~40、(奈良県立商科大学研究季報第8巻第1号)参照。
- (8) OEDにだけ採用された語 : banzai party, dairisama, geisha-house, hanami, hanashika, hatamoto, ibotenic acid, Ikunolite, inkyo, Ishihara-blind, Ishihara method, Ishihara plates, jito, johachidolite, judogi, jujitsian, junshi, Kakiemon ware, kamidana, kenjutsu, kesagatame, kikyō, kobeite, kogai<sup>1</sup>, LDP, makiwara, moxocausis, muraji, Ningyoite, Noh mask, omi<sup>1</sup>, omuraji, on, protoaremonin, rickshaw-cycle, rickshaw man, rickshaw-tricycle, Roju, sake bottle, sake cup, sake shop, samurai-minded, seoi nage, sewamon o, shibumi, Shijo, shikimin, shintoize, shodan, shogunite, shogunship, shokku, \*shomio, Shorin ryu, sobaya, Sohyo, sosaku hanga, soya burger, soya flour, soya link, soya sausage, soybean cutlet, soybean sauce, soybean soup, soy biscuit, soy bottle, soy jam, soy protein, sudoite, suimono, suiseki, Suntory, sushiya, sutemi-waza, Takayasu's disease, Tanabata, tatami-floored, tatami-matted, tatami matting, tatami room, temmoku glaze, tempura restaurant, terakoya, todorokite, tomoe-nage, tycooness, tycoonism, ude, wakame, waza-ari, Yamaguchi-gumi, Yamato-damashi, Yamato-

ryu, Yeddo crepe, Yeddo poplin, Yezo spruce, Yokohama crape, yondan, yugawaralite, Yukawa force, Yukawa particle, zaitech, Zen Master, ziagoon, ziagoonship. ※印の語はOED(1)以降一切採用されていない。

- (9) OEDとSOEDだけに採用された語 : bonzess, dotaku, geisha girl, hakama, haraigoshi, hinin, ibotenate, ippon, Ishihara, itzebu, Janken, jigotai, joro, jōruri, kabane, kainic, katsuo, katura, katsuobushi, katuramono, kempeitai, ken<sup>1</sup>, Kikuchi, ki-mon, kirin, koi-cha, kokeshi, Korin, kotatsu, kura, kuzushi, kyu, magatama, maiko, mamasan, manyogana, metake, miai, Mikado pheasant, mikan, Mikimoto pearl, mingei, mochi, mompei, nakodo, Nanga, narikin, Nashiji, nightingale floor, ningyo-jōruri, Nippon vellum, noshi, Obaku, o-goshi, oiran, ojime, okimono, onsen, osaekomi waza, oshibori, O-sotogari, oyama, rikka, Rinzai, rishintin, Roshi, ryo, ryu, sabi, sai, sanpaku, seiza, sennin, sentoku, shabu-shabu, shaku<sup>1</sup>, Shibayama, shibui, shihan, shikimi, shimada, shime-waza, shinkansen, shippo, shishi, sho<sup>2</sup>, shochu, shosagoto, shosha, Shotokan, shugo, shunga, shuriken, shuto, soba, sogoshosha, sokaiya, soshi, Soto, soya meal, suiboku, sumi-gaeshi, sumotori, sumo wrestling, surimono, Suzuki, suzuribako, tansu, tatami-mat, temmoku, tenko, teppanyaki, to, togidashi, tokkin, tonarigumi, tori, Tosa, Tosa picture, tsugi ashi, Tsukahara tuck, tsukemono, tsukuri, tsurikomi, tsutsumu, tycoonery, tycoonish, tycoonship, uchimata, uchiwa, ude-garami, ude-gatame, udon, uguisu, uji<sup>2</sup>, ujigami, uke, ukemi, uki, ura-nage, wabi, wakame, washi, Yagi aerial, yashiki, Yoko-shiho-gatame, Yokozuna, yugen, Yukawa potential, yuzen, zaikai, Zengakuren.

なお、SODEにだけ採用された語 : banzuke, nighter, rikishi, samurai bond, sukiya, taiko, tai-sabaki, takamakie の8語である。

- (10) ... was superadded the principle of historical illustration, introduced by Rich-

ardson. – HISTORICAL INTRODUCTION  
I, OED.

- (11) この件についてOEDに照会したところ、この語は既刊のOED Additions series vol.1において掲載してある。SOEDでは、採用するに足る重要な語であると見做したので、Additions series刊行前に掲載したとの回答を得た。
- (12) ※ aburabozu, ※ akabo, Amaterasu, ※ aogiri, ※ Awaji pottery, bai, ※ banko ware, ※ Benten, ※ Bishamon, ※ boninite, butsu, daibutsu, ※ Daijo, ※ Daikoku, ※ Ebisu, ※ Fuku-roku-ju, ※ gokuraku, ※ hoju, ※ Hotei, Japan Current, Jō-do-shū, ※ Jurojin, ※ katakiribori, ken<sup>1</sup>, ken<sup>3</sup>, ※ Kojiki, ※ kokumin, ※ Kwannon, matsuri, Meiji, ※ Minseito, ※ nigori, ※ Nihongi, ※ nishiki, orihon, ※ Rikken, ronin, ※ Seiyuhonto, ※ Seiyukai, sho<sup>1</sup>, ※ Shojo, sun, ※ tachibana, Taisho, Tempyo, ※ tengu, to, ※ Tosa fowl, ※ Tosa school, tsuba, ※ Tsutsutsi, uta, ※ utai, ※ Yamato school, Yoshiwara, ※ yuzen birodo. yuzen process. ※印の語はW(2)以降一切採用されていない。
- (13) 伊藤、上掲書PP.39–40.
- (14) ◎aikuchi, Akihito, Akita (秋田), Amida,

◎ aoi tsuba, arigato, Ashikaga, Asosan, Awaji, Azuchi-Momoyama, bento, Biwa<sup>2</sup> (琵琶湖), black pine, Burakumin, daisho, daruma, engawa, Fujiwara, Genroku, Higashiyama, Hirohito, Hiroshige, Hiroshima (広島), Hojo, Hokkaido, Hokusai, Hondo, Honshu, ◎ishme, Iwo Jima, Jodo Shinshu, kakebuton, ◎kanamono, katana, ◎ken<sup>4</sup> (剣), kendoist, Kobe beef, ◎kogai<sup>2</sup> (筭), ◎kojiri, Kokka, ◎Kuroshio extension, kwaiken, Kyushu, makizushi, matsutake, Momoyama, Minamoto, nigirizushi, ◎Nippon chrysanthemum. nokyo, Ogasawara Jima, Okinawa, Okuninushi, Omi<sup>2</sup> (近江), Oyashio Current, ◎shibuichi-doshi, Shiga bacillus, shikibuton, Shikoku, ◎Shingen tsuba, ◎Shingishu, Shuha, soogee, soy frame, Suribachi, surimi, tachi, Taira, tanto, Togo, Tokyo Bay, Tomonaga-Schwinger, theory, ◎tsurugi, Tsushima, Tsushima Current, Tsushima Strait, wakizashi, Yezo, Yokohama (横浜). ◎印の語はRHD(1)以降一切採用されていない13語である。

#### 参考文献

- 伊藤孝治「英語に採り入れられた日本語」(その3) 奈良県立商科大学研究季報第7巻第2号、1996。  
——「英語化した日本語」 奈良県立商科大学研究季報第8巻第1号、1997。  
大和田栄「OEDに見られる日本語—資料と分析—」 東京成徳短期大学紀要第28号、1995。  
——「OEDに見られる日本語—異形・綴・派生—」 東京成徳短期大学紀要第29号、1996。  
本名信行、ヘイツ・ホッフア編『日本文化を英語で説明する辞典』 東京 (有斐閣)、1986。  
奥山益朗編『消えた日本語辞典』 東京 (東京堂)、1993。  
武光誠著『歴史から見た日本語語源詮索辞典』 東京 (創拓社)、1993。  
『英独羅日 化学語大辞典』11版、東京 (三共出版)、1984。  
『広辞苑』第4版、東京 (岩波書店)、1991。  
『日本百科事典』再版、東京 (小学館)、1970。  
『世界大百科事典』初版、東京 (平凡社)、1988。  
Adrian Room:NT's Dictionary of Trade Name Origins rev.ed. Lincolnwood.NTC Business Books, 1994。  
『バーンハート英語新語辞典』初版、東京 (秀文インターナショナル)、1982。  
*The New Shorter Oxford English Dictionary*. Oxford : Clarendon, 1993. [SOED].  
*The Oxford English Dictionary*. Oxford : Clarendon, 1970. [OED(1)].  
*The Oxford English Dictionary*. Oxford : Clarendon, 1989. [OED(2)].

*Oxford English Dictionary Additions Series* vol. 1 • 2. Oxford : Clarendon, 1993.  
[OED add(1)(2)].

*Oxford English Dictionary Additions Series* vol. 3. Oxford : Clarendon, 1997. [OED add(3)].

*The Random House Dictionary of English Language*. New York : Random House, 1979.  
[RHD(1)].

*The Random House Dictionary of English Language*. New York : Random House, 1987.  
[RHD(2)].

*New Shogakukan Random House English-Japanese Dictionary*. Tokyo : Shogakukan, 1994.  
[SRHD].

*Webster's New International Dictionary* 2nd ed. New York : Prentice Hall, 1952. [W(2)].

*Webster's Third International Dictionary*. New York : Prentice Hall, 1986. [W(3)].

*1200 words/A Supplement to Webster's Third International Dictionary*. Spring : Merriam-Webster, 1986. [W(3)'s supplement].